

ウラ指導の一発逆転模試が的中する理由

「用語の定義」項目からの 出題傾向一覧(平成3年～21年度)			考察	
小項目	H3～H12年度 問題コード	H13～H21年 度		
建築物	05012		<p>何故、「一発逆転模試は的中するのか?」について説明させていただきます。ご存知の通り、学科試験の試験範囲は非常に膨大です。ただし、出題される問題数は、計画20問×4選択肢＝80選択肢、環境・設備20問×4選択肢＝80選択肢、法規30問×4選択肢＝120選択肢、構造30問×4選択肢＝120選択肢、施工25問×4選択肢＝100選択肢、となります。これを1問1答式で考えると、かなり絞られた問題数でしか受験生を試すことができない、という絶対的なルールが存在し、それこそが学科試験を攻略する上での最大のポイントであることがわかります。尚、1教科は、約30程度の項目に分類することができます。左側の表には、法規科目の「用語の定義」という項目における平成3年～21年度までの19年分の出題傾向を一覧化したものです。「用語の定義」という項目は、「建築物」、「特殊建築物」、「建築設備」といった小項目にさらに区分されます。</p>	
	08013	「19014」		
	10014	「13011」		
特殊建築物	09011	「14011」 「16011」 「18013」 「19011」		
	04011			
	11011			
	03011	「15014」		
建築設備	03013	「14015」 「15012」 「19013」		<p>話は変わりますが、これまでの過去問題を1問1答式に直し、それらを全てデータベース化した上で多角的に検証を繰り返し続けたところ、ある法則が見えてきました。それを分かり易く説明しますと、この学科試験に合格するために必要となる知識がある項目(例:用語の定義)において、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5つあったとします。そのうち、ある年に、「C」について出題されたとしましょう。その翌年には、「A」が出題されたとします。すると、さらに次の年には、「B」、「D」、「E」のうちのいずれかが出題されます。仮に、「B」が出題されたとしたら、その次には、「D」か「E」のうちのどちらかが出題される可能性が高くなるわけです。ちなみに、新問題として、「F」という知識が出題された場合には、学科試験合格のために必要となる知識は、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」、「F」の6つに増えます。皆さんも、「効率よく学科試験を合格するためには、過去問題をマスターすればよい」という話をしばしば耳にしてきたと思いますが、その最大の理由は、過去問題をマスターすることによって、先に述べた合格するために必要となる知識(「A」、「B」、「C」、「D」、「E」、「F」)を最も効率的に、かつ、短時間で把握することができるからです。</p>
	08012			
	11012			
	09013			
居室	04013			
	06011			
	12011			
主要構造部	03181	「13014」 「20014」		
	09014			
	05013			
	10012			
	03014	「16013」		
延焼のおそれのある部分	12015	「18014」 「20075」 「21013」		
	03012			
	05015			
設計図書	10011	「13015」		
	04012			
建築	11014	「15011」 「19015」		

ウラ指導の一発逆転模試が的中する理由

大規模の修繕	08011	
	03183	
	12014	「20012」
	07013	
建築主	05014	
工事施工	12013	「13013」 「19012」
敷地	08015	
	12012	
	04015	
地階	11015	「15013」 「20011」
	07011	
構造耐力上主要な部分	03015	「15015」
	06012	
	11013	
耐水材料	07012	「13012」 「16012」
	10013	
避難階	07014	「14014」 「16015」 「21011」
外壁後退距離	07015	
防煙壁	09015	「20013」

左記の一覧表では、学科試験問題の過去問題を四肢択一ではなく各選択肢毎に、1問1答化し、全て5桁のコード表示により扱っています。はじめの2桁が「年度」、次の2桁が「問題番号」、最後の1桁が「何番目の選択肢か」を表します。

例：平成5年8問目3番目の選択肢の場合→コード05083
例：平成13年11問目2番目の選択肢の場合→コード13112

また、出題傾向の分析においては、H(平成)3～H12年までの10年分と、H13～H21年度までの9年分とを次のように区分しています。

H3～H12年までの過去問題＝「10年分の基本問題(比較的、新問題の出題割合が低い)」
H13～H21年までの過去問題＝「近年問題(比較的、新問題の出題割合が高い)」

左記の一覧表において、例えば、「建築物」という小項目についてH3年以降に出題された問題は、問題コード「05012」、「08013」、「10014」、「13011」、「19014」の5問であることが読み取れます。「建築物」という小項目については、平成3年～12年までの期間において、問題コード「05012」、「08013」、「10014」の3問が出題されています。さらに、近年(H13～21年度)においては、H13に問題コード「13011」、H19に問題コード「19014」として出題されているのが分かります。その際、問題コード「13011」は、問題コード「10014」の類似問題として、問題コード「19014」は、問題コード「08013」の類似問題として出題されています。また、「建築設備」という小項目の欄にある問題コード「14015」、「15012」、「19013」は、共に、問題コード「03013」の類似問題です。つまり、問題コード「03013」の類似問題が3問、近年問題として出題されていることが分かります。このように、各問題毎の重要度も判定することができます。尚、近年に出題されている問題の類似元となっている問題については、黄色で色付けしております。また、近年問題として出題されている小項目には、水色で色付けしております。

以上のような分析をもとに、各教科ごと、各項目ごと毎年、分析・検証を繰り返す。さらに、**各種法改正状況**や、「**景観法**」、「**懲戒処分**」、「**CASBEE**」、「**建築の地震PML評価**」、「**アスベスト対策**」、「**建築物の解体等(改修)に伴う有害物質等の適切な取り扱い**」などといった新問題対策問題を加味した上で作成されている模試がウラ指導の一発逆転模試です。毎年、一発逆転模試の的中率が高くなる理由がここにあります。